

會津日史

福島縣
教育會
若松市部會編

若松
鈴木屋書店發兌

368
389

023299-000-2

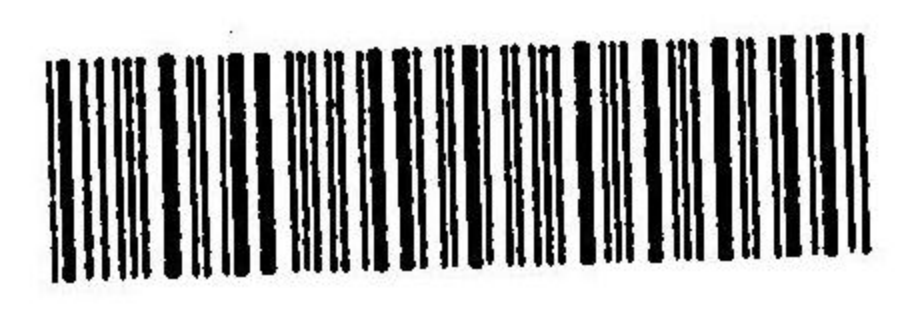
特28-481

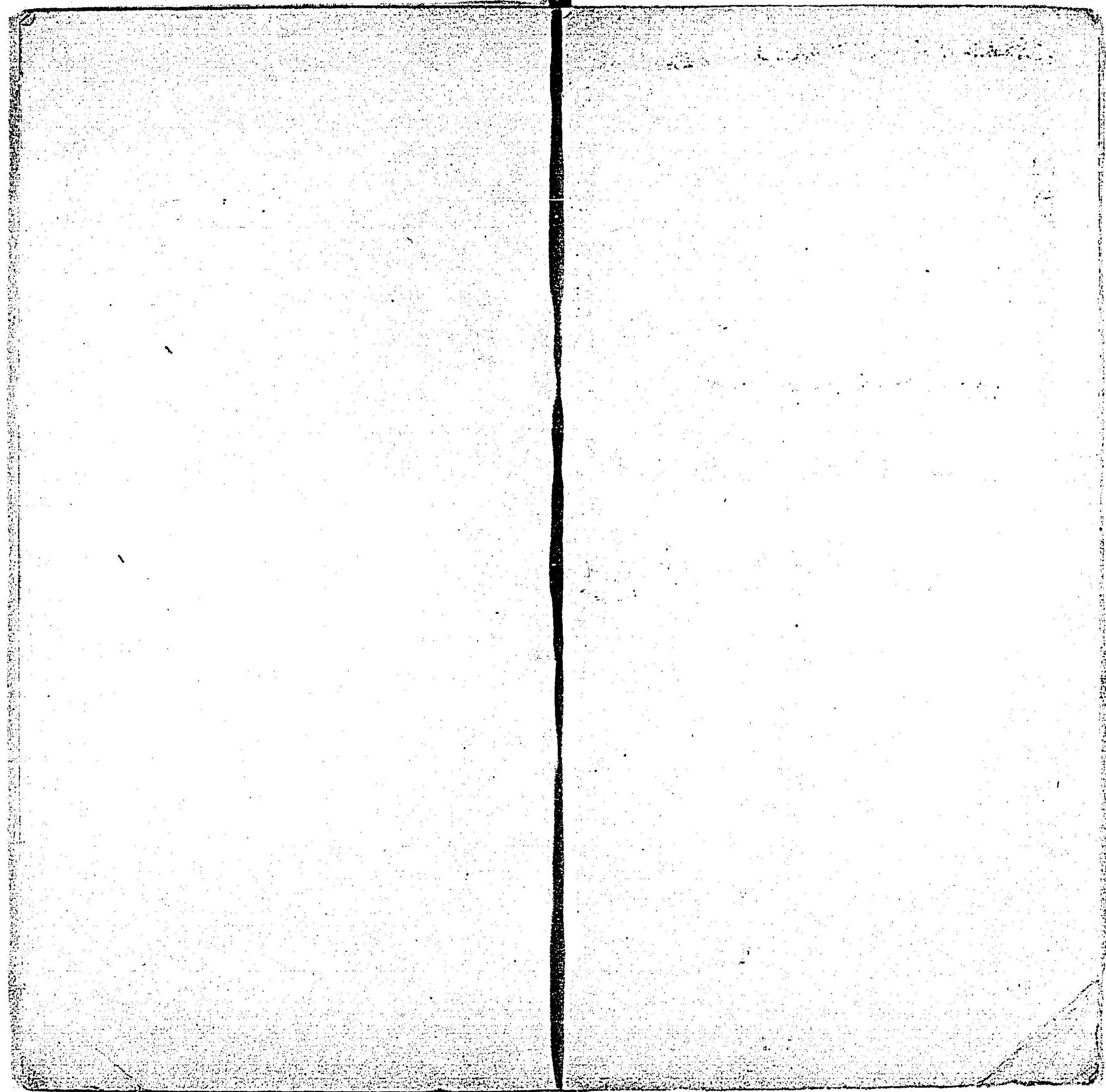
會津日史

福島県教育会若松市部会/編

M44

ADC-0180

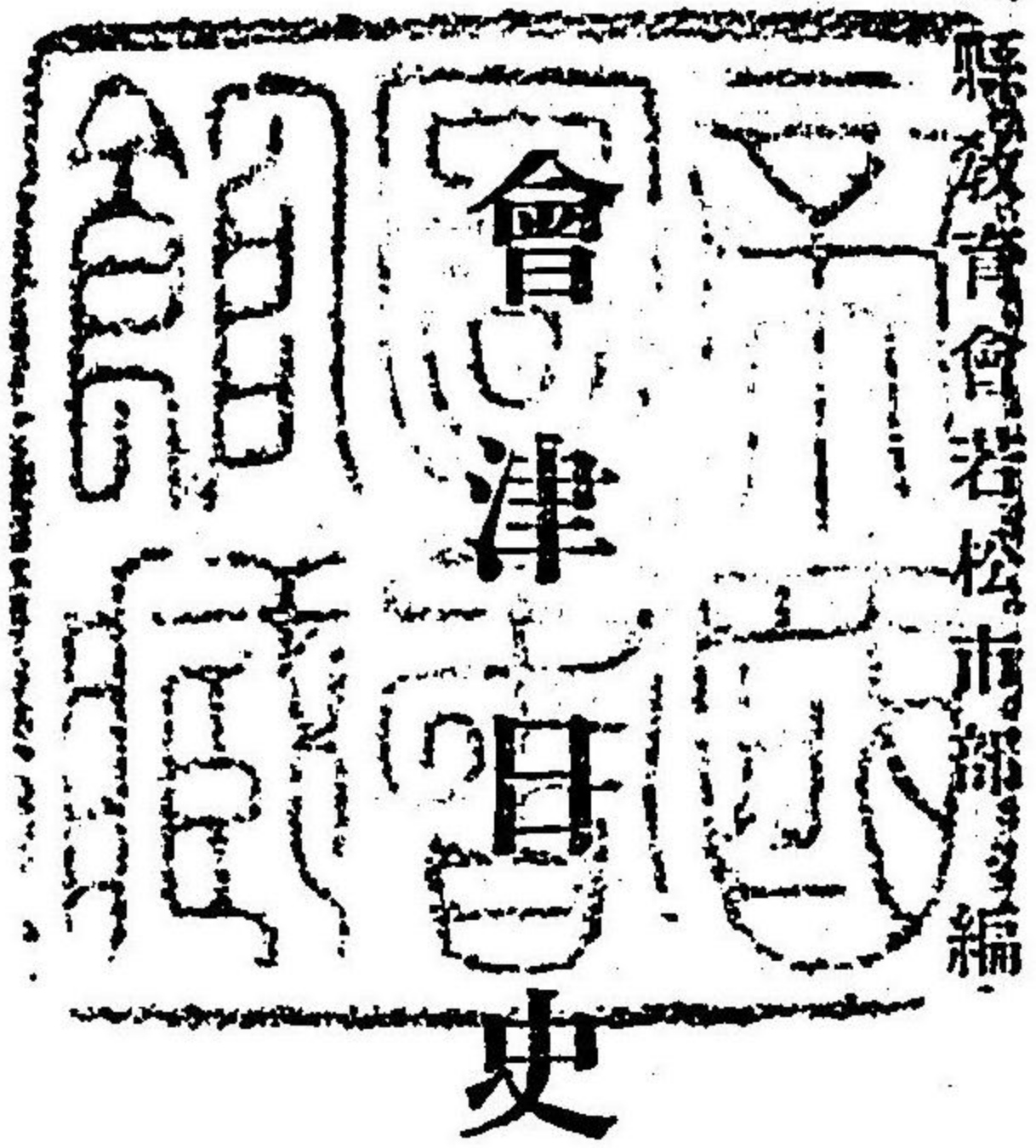




特28

481

福島縣教育會若松市部編



鈴木屋書店刊行



序

會津日史編纂成リ書肆ヲシテ之ヲ世ニ公ニセシム
此書直ニ兒童ノ教課ニ充ル可カラサルモ有志ノ士
之ニ藉リテ其事實ヲ講究セバ庶幾クハ教課ヲ裨補
スルヲ得ンカ發刊ニ臨ミ一言卷首ニ弁ス

明治四十四年九月二十五日

福島縣教育會若松市部會長

淺岡

一

會津日史編纂委託セラレ候ニ付夫々方針ヲ定メ材料ヲ蒐集シ各種ノ方面ニ涉リテ成ルヘク精確ナル
 調査ヲ遂ケムコトヲ期セシカ何十分ナル材料ヲ得ルコト能ハス遺憾ノ点尠カラス候ヘトモ一ト先
 ツ結了別冊ノ通調製及報告候也

明治四十四年三月十五日

編纂委員

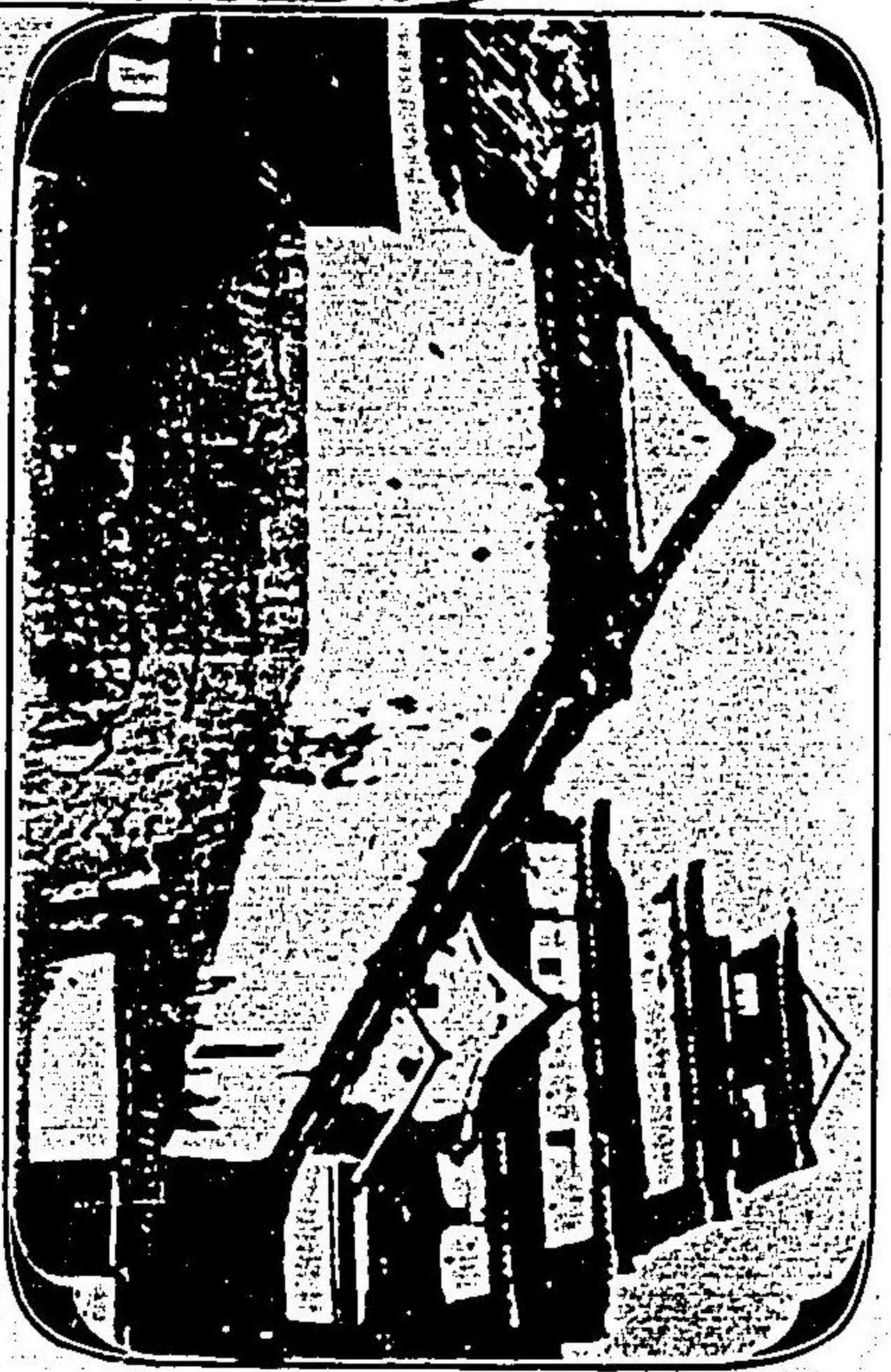
飯岡左内	飯岡左内	飯岡左内	飯岡左内	飯岡左内	飯岡左内	飯岡左内	飯岡左内	飯岡左内	飯岡左内
星野胤國	星野胤國	星野胤國	星野胤國	星野胤國	星野胤國	星野胤國	星野胤國	星野胤國	星野胤國
小川謙三	小川謙三	小川謙三	小川謙三	小川謙三	小川謙三	小川謙三	小川謙三	小川謙三	小川謙三
加藤友之助	加藤友之助	加藤友之助	加藤友之助	加藤友之助	加藤友之助	加藤友之助	加藤友之助	加藤友之助	加藤友之助
大竹重次郎	大竹重次郎	大竹重次郎	大竹重次郎	大竹重次郎	大竹重次郎	大竹重次郎	大竹重次郎	大竹重次郎	大竹重次郎
紺野通威	紺野通威	紺野通威	紺野通威	紺野通威	紺野通威	紺野通威	紺野通威	紺野通威	紺野通威
緑川幸三郎	緑川幸三郎	緑川幸三郎	緑川幸三郎	緑川幸三郎	緑川幸三郎	緑川幸三郎	緑川幸三郎	緑川幸三郎	緑川幸三郎
長谷川代吉	長谷川代吉	長谷川代吉	長谷川代吉	長谷川代吉	長谷川代吉	長谷川代吉	長谷川代吉	長谷川代吉	長谷川代吉
戸田富次郎	戸田富次郎	戸田富次郎	戸田富次郎	戸田富次郎	戸田富次郎	戸田富次郎	戸田富次郎	戸田富次郎	戸田富次郎
片川悦藏	片川悦藏	片川悦藏	片川悦藏	片川悦藏	片川悦藏	片川悦藏	片川悦藏	片川悦藏	片川悦藏
宗形二郎	宗形二郎	宗形二郎	宗形二郎	宗形二郎	宗形二郎	宗形二郎	宗形二郎	宗形二郎	宗形二郎
山本良作	山本良作	山本良作	山本良作	山本良作	山本良作	山本良作	山本良作	山本良作	山本良作
秋月次三	秋月次三	秋月次三	秋月次三	秋月次三	秋月次三	秋月次三	秋月次三	秋月次三	秋月次三

福島縣教育會若松市部會長 淺岡 一殿

開城の折に
 菜女
 明日よりは
 いくの人
 ら眺む
 らん
 なれし
 大城に
 寝る
 月影

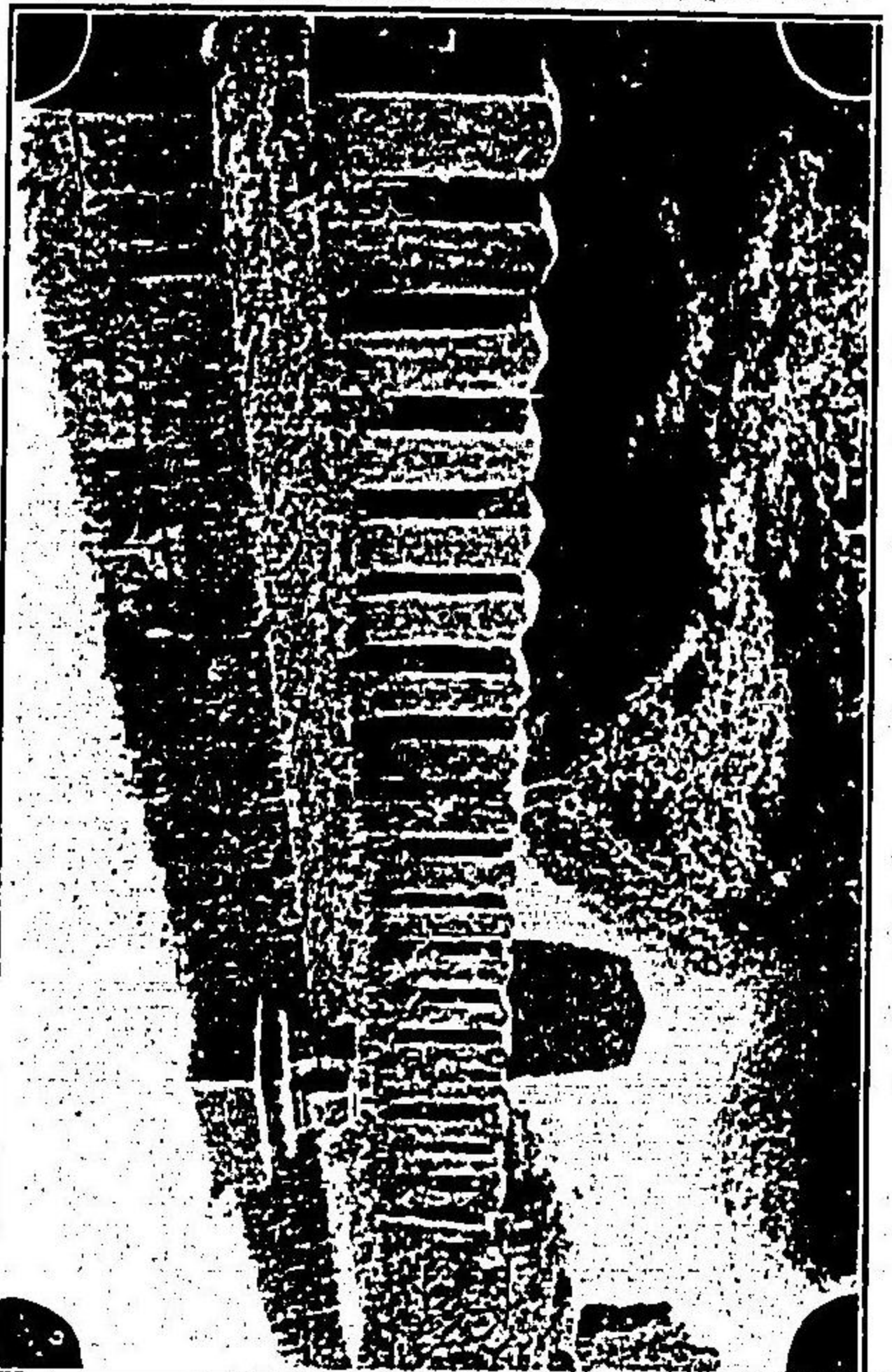


蓮の門御鼓太趾城夕絶



(後展辰戌) 門御金黒之閣主天城夕絶津會

もさくゝそにしいは源の人とい
ふ思そさじ村に々世は名のそ
保 客 源



墓 墳ノ 隊 虎 白 山 盛 飯



趾 城 夕 龜 代 苗 猪

凡例

- 一 本書ハ郷土ニ關スル教育上ノ參考ニ資センカ爲編輯シタルモノナリ
- 一 本書ハ會津地方ニ關スル歴史的事項ヲ簡單ニ記載シタルニ過キズ其詳細ナル事實ニ至リテハ、參考シタル各本書ニ就キテ知ルヘシ
- 一 歴史的事實ノ起リタル日ノ不明ナルモノハ、止テ得ス之ヲ月末ニ記載シ、月日共ニ不明ナルモノハ之ヲ卷末ニ附記セリ
- 一 本書年紀及ヒ參考書名等ハ略符ヲ用ヒタリ、例ヘハ櫻町、寛保二、二四〇二ハ櫻町天皇寛保二年紀元二千四百二年ナルコトヲ示シ、孝傳五ハ會津孝子傳第五卷ナルカ如シ
- 一 本書參考書目及ヒ其略符左ノ如シ

參考書目

古事記

略符

記

會津四家合考
 會津舊事雜考
 大日本史料
 會津風土記
 新編會津風土記
 會津風土記提要
 奥羽史料
 土津靈神事實
 土津遺事
 會津古人傳
 會津千城傳

合考
 雜考
 史料
 古記
 新記
 記要
 奥羽
 事實
 遺事
 古傳
 千傳

福島縣偉人事蹟
 會津孝子傳
 會津日記
 會津外史
 會津史
 七年史
 元慶騷亂記
 會津溫故拾要抄
 嵐の餘波
 斗南藩來歷撮要
 猪苗代見利見開略記

偉蹟
 孝傳
 日記
 外史
 會史
 七史
 元記
 溫故
 嵐
 藩歷
 略記

田中支事蹟
 佐川官兵衛君傳
 日本人名辭書
 耶麻郡調査

田中
 佐川
 辭書
 耶調

一 舊藩主松平家ニハ特ニ敬稱ヲ用ヒタリ
 一 本書編輯ニ際シテハ各方面ニ渉リテ廣ク事實ヲ蒐集シ、且ツ正確ナランコトヲ期シタレト
 モ、參考書籍乏シクシテ十分ナル材料ヲ得ルコト能ハス、尙遺漏誤謬等少カラサルヘシ、
 他日増補訂正セント欲ス、看者幸ニ指摘示教セラレンコトヲ希フ、

明治四十四年三月

編纂委員識ス

沿革概要

會津は福島縣の西部に位する地方にして、北會津、南會津、大沼、河沼、耶麻、五郡の總稱なり、險山高岳四方を圍み、中央は平地にして一大盆地を成し、大川、只見、日橋等の諸川其間を貫流し、地味豊饒にして産物に富む、面積三百二十二万里、人口約二十五万を有し、自ら別に一國を成せり、
 會津五郡の分合は其年月を詳にせず、養老二年、會津、白川、石背、安積、信夫の五郡を割きて石背國を置きしこと始めて史に見ゆ、天平三年諸國に令して國郡圖を上らしめし時は大會津國、又大會津郡と唱ひしといふ、延喜式に耶麻郡の稱見ゆたり、延長中會津郡を割きて大沼郡を置く、其後會津、大沼二郡を割きて河沼郡を置く、河沼郡の西部を嵯川莊又稻川莊といひしよりいつしか稻川郡の稱あり、是を以て昔に會津、耶麻、大沼、河沼を以て會津四郡と稱せしを、寛文の頃に至りては四郡の名全く紛亂して會津郡を失ひ、大沼、耶麻、稻川、河沼を會津四郡と稱し會津は其總稱として用ひらるるに至れり、保科正之公此地に封せらるるに及び、典籍を考へ、地理を察し、古書古器銘等に據りて境界を正し、大沼郡の東南を割きて會津郡を復し、稻川郡を河沼郡に併せ茲に始めて古に復せり、而して會津郡を南北兩郡に分ちしは近く明治十二年にあり、

會津の名の始めて史に見わたるは、遠く崇神天皇の朝にあり、天皇十年四道將軍を四方に遣し王化に浴せざる地方を平定せしむ、此時大彥命は古志國を巡察し、武尊名川別命は東海新國を定め、共に陸奥の西南に廻りて相遇ふ、依て其土を相津と名づく、是即今の會津なり、然れども地僻して帝京を距ること遠く、所謂東夷の一部に屬し、久しく皇澤に沾はざりき、

欽明天皇元年、梁の僧智度といふ者あり、河沼郡根岸に來り、山上に庵を營みて高寺と稱す、これ此地方寺院の始めなりといふ、然れども佛教の渡來を天皇十四年とする正史に従へば疑なきこと能はず、齋明天皇四年に至り僧性空の弟子蓮空來りて此寺に住し、高寺を改めて石塔山慧隆寺と稱し、遠近に多くの寺領を有して貢を納れしが、後慧日寺の屬寺となれり、當時慧隆寺三十六房舎ありて、其近境に三千の寺院を有せしといふ、

慧日寺は僧空海の創建にかゝる、傳へ云ふ、平城天皇大同元年地大に震ひ、月輪、更科二莊陷没し、水湛へて湖となる、即ち猪苗代湖なり、是に於て同二年空海勅命を奉じて此地に來り、郡村を巡りて人民を教化し、且つ變災鎮護の爲に一寺を磐梯山麓に建立して清水寺といふ、後慧日寺と改稱せり、此時朝廷官租を削りて寺領に附せしを以て、其納貢會津四郡に跨り、寺門頗る繁榮せり、弘仁元年空海寺を弟子徳一に附して歸京す、徳一之を金輝に讓る此時に方り慧日寺の段宮益々甚しく、寺僧三百人、子院三千八百坊其僧

侶數千人に及び、數里の間堂塔五を並べ、宏壯比なし、會津四郡皆其命に従はざるなく、寺領の石高凡十八万石餘に及びり傳ふ、蓋し奈良朝より平安朝に至るの間、會津は佛氏の教化を蒙り、寺院の治下にありたるが如し、

壽永元年木曾義仲の信濃に起るや、平氏城長茂をして之を伐たしむ、時に慧日寺の僧乘丹といふものあり、會津四郡の兵を發して長茂に従ひ、義仲と信州横田河原に戦つて之に死す、源家一統の世となるに及び、慧日寺は平氏に屬せるの故を以て寺領を放たれ、屬寺子院を廢せられ、勢力頓に衰ふ、

文治五年源賴朝藤原泰衡を伐ちて之を平け、會津を分ちて佐原義連、山内季基、長沼宗政、河原田盛光等を封す、義連會津に入り耶麻部半在家に築きて之に居る、季基は大沼郡山入に城きて中丸城と稱し、後横田城と改む、宗政は田島に城きて秋山城と稱し、盛光は伊南に城きて久川城と稱し、後柳川城と改む、而して山内、長沼、河原田皆佐原氏に隸屬す、

佐原義連は三浦義明の子にして頼朝の功臣なり、賴朝蓋し彼を選抜して奥羽の咽喉を扼せしめたるなり、義連卒し子盛連繼ぐ、盛連六男あり、長男經連猪苗代に居り、二男廣盛北田に居り、三男盛義藤原に居り、五男盛時加納に居り、六男時連新宮に居り、各々其居る所を以て氏とす、而して四男光盛、盛連の嗣となりて會津を總領し、佐原氏を改めて芦名氏と稱す、景盛、盛宗、盛員を経て直盛に至る、至徳元年直盛

地を黒川に相して城郭を築き黒川城と稱して此に住す、即ち現今の若松なり、詮盛、盛政、盛久、盛信、盛隆、盛高、盛隆、盛隆を経て盛氏に至る、盛氏勇悍にして武略あり、内徳政を施して人民を愛撫し、外隣國と戦ひて武威を張り、上杉謙信、武田信玄、北條氏康等皆使を遣し好を修む、永祿四年家を于盛興に譲り、岩崎に築きて退隠し止々齋と号す、既にして盛興卒す、子なし乃ち二階堂盛義の子盛隆を養ひて嗣とす、盛隆其臣大庭三左衛門の爲に殺せられ、子龜王丸立つ、三歳にして夭す、是に於て家臣等佐竹義重の二男義隆を迎へて之を立つ、是より先伊達政宗東北に雄視し四方の志あり、是に於て猪苗代盛國を誘ひて内應せしめ、兵を發して黒川を攻めんとす、義隆之を聞き兵七千を率ゐ、逆ひて磨上原に戦ふ、時に天正十七年六月五日なり、我軍大敗し、義隆僅に免れて常陸に走り、蓋名氏亡ぶ、伊達政宗黒川城に入りて會津を領有す、

時に豊臣秀吉大軍を率ゐて北條氏政を小田原に攻む、東北の諸侯震駭し、争うて來り降る、政宗、其臣をして往いて之を覗けしめ、其勢威の盛なるを聞き驚き恐れ自ら往きて降を乞ふ、秀吉、政宗をして悉く其領地を返さしめ之を長井に移し、會津仙道十一郡の地を藩生氏郷に賜ひ、以て東北を鎮せしむ、天正十八年九月五日氏郷黒川城に入り、士を賞し民を撫し、大に城池を修め市井を正し、黒川を改めて若松と稱す、氏郷會津を治むること六年、治績大に譽る、文祿四年二月卒す、子秀行封を襲きしが、慶長三年正月宇都

宮に移るさ、上杉景勝代りて會津に封せられ、百二十万を食む、此年豊臣秀吉薨す、嗣子秀頼年甫めて六歳、景勝、徳川康家、前田利家、毛利輝元、浮田秀家等と並に大老となり之を輔く、而して家康威權獨り熾なり、是に於て石田三成、景勝の臣、直江兼続と謀り、景勝に勸め、東西事を擧げて家康を除かんせしが、關ヶ原の一戦天下の實權遂に家康に歸し、景勝封を削りて米澤に移され、藩生秀行再び會津に封せられ、六十万石を食む、秀行卒し子忠郷繼く、寛永四年忠郷病んで卒す、嗣なくして國除せらる、加藤嘉明伊豫より會津に封せられ四十万石を食む、嘉明會津を治むること四年、治績あり、嘉明卒して子明成立しが後故ありて悉く其土を返還せり、

寛永二十年五月保科正之公會津に封せらる、正之公は二代將軍秀忠の子にして三代將軍家光の弟なり、幼にして保科正光に養はる、寛永十三年山形に封せられ二十万石を食みしが是に至りて三万石を増し、會津に封せらる、公天資英邁にして文武兼備はり、幼稚なる將軍(綱吉)を補佐して幕府の重任に膺ること十九年、外國家の安寧を圖り、内善政を封内に布けり、子正經公繼きて立つ、正經公卒して弟正容公嗣ぐ、幕府命じて姓を復し葵章を用ひしむ、是より代々松平氏と稱す、容貞公より容頌公に至る、容頌公賢明にして治を勵み、民を教へ産を興し、又學校を設立して子弟を教育せり、是れ即ち日新館なり、容住、容衆、容敬三公を経て容保公に至る、是時に方り、外國との交渉漸く切迫し、開港を説くものあり、攘夷を論す

るものあり、或ハ尊王を唱ひ、或ハ佐幕を主張し、海内騒然たり、文久二年容保公京都守護職に任ぜられ
 て禁闕を守護し、上は朝廷を尊崇し、下は幕府を擁護し、會津の勢威天下に振ふ、然れども時運變轉し、
 順逆處を替へ、退いて若松城を守り、大軍に抗するこゝ月餘、衆寡敵せず、城遂に陥り悉く城地を没收せ
 らる、實に明治元年九月二十三日なり、
 王政維新、百事改革せられ、明治二年若松縣を置く、同四年一旦之を廢せしが更に、若松縣を置かれ、同
 九年再び廢して福島縣に合し、以て現今に至れり之を會津沿革の概要とす

會津日史

福島縣教育會若松市部會 編

月日	年	事	項	参考書	備考
正月一日	櫻町、寛保二 二四〇二	會津孝子傳成ル		孝傳五	森雪翁著五卷アリ
	後櫻町、明和四 二四二七	儉約ヲ行フヘキ爲家中ニ令シテ封事ヲ上ラシム			
	明治五 二五四二	若松郵便局ニテ始メテ電信事務ヲ取扱フ			
正月二日	孝明、文久三 二五二三	松平容保公參内 天顔ヲ拜シ純緋御衣ヲ賜ハ ル		七史	

正月三日	明治元 二五二八	會桑ノ兵薩長ノ兵ト伏見ニ開戦ス	元記、天 七史	會藩死傷二百五十五人 内戦死七十四人
正月四日	全	鳥羽ノ戦		
正月五日	明治元 二五二八	蒲生忠郷卒ス年二十五	合考一九 記要	墓ハ若松市高巖寺ニア リ
	明治三 二五三〇	松平慶三郎公北海道後志國三郡膽振國一郡ノ支配ヲ命セラル	藩歴	
	明治三三 二五六〇	秋月胤永歿ス年七十七		

正月九日	櫻町、延享元 二四〇四	松平容領公生ル	新紀	
正月十日		若松市大町初市		至徳元年蓋名直盛府城 ヲ築キシ初ヨリ今ニ其 事絶エスト云フ
正月十一日	光格、寛政元 二四四九	家士婚葬ノ規式并ニ衣服棺槨ノ制度ヲ定ム		
正月十三日	徳元、寛文四 二三二四	滝澤組下居合村藤三郎妻ノ貞節ヲ賞シ金二両ヲ賜フ	日記上	
正月十四日	徳元、延寶五 二三三七	此日ヨリ二十三日マテ赤雪降ル		
正月十五日	明正、寛永七 二二九〇	耶麻郡小田付村市日ヲ定ム	新記九	
正月十六日	後陽成、慶長三 二二五八	蒲生秀行封ヲ宇都宮ニ移サル	合考二二	

正月二十日	明治三七 二五六三	岩越鐵道線路中若松喜多方間開通ス	外史七	
正月廿二日	中御門、享保三 二三七八	家中白壁ノ厨壁ヲ停止ス		
正月廿四日	明治二四 二五五一	諸役元員ヲ沙汰ス		
正月廿七日	後桃園、安永二 二四三三	日本組合若松基督教會設立		
	靈元、寛文一〇 二三三〇	耶麻郡慶徳組松野村源七郎寺跡方古物ヲ發掘ス	日記上	會津地方ニ於ル基督新 教派ノ開始ナリ
	明治一二 二五三八	會津郡ヲ分チテ南北兩郡トス		

四

正月廿九日	靈元、寛文九 二三三三	松平正容公生ル		
正月廿九日	後桃園、寛延三 二四一〇	耶麻郡島村念川村ノ農民蜂起		
正月三十日	光格、天明八 二四四八	軍政改革ヲ令ス		
	明治三五 二五六二	若松米澤間電信直通ス		
正月	後光明、承應元 二三一二	保科正之公軍令十四條軍禁十五條家中ノ制十四 條道中ノ制十三條ヲ定ム	事實	條目ハ會津圖書館ニ載 セリ
	桃園、寶曆元 二四一一	怪星出ツ	日記下	此頃赤雪屢々ニ降ル

五

二月四日	二月三日	二月一日	全寶曆二 二四二一
明治三一 二五五八	桃園、寛延三 二四一〇	後西院、明暦三 二三一七	積雪甚シク新炭高直ニ付坊間貧家ニ救炭ヲ給ス
男爵山川浩薨去	猪苗代暴民蜂起ス	長門守松平正頼公卒ス年十八	大雪
			安部井聚没ス
			仁孝、弘化二 二五〇五
			後桃園、安永六 二四三七
			所々倒家アリ
			新記三
			正之公ノ子ナリ
			陸軍少將 貴族院議員タリ

二月五日	二月六日	二月七日	光格、文化五 二四六八
明治二四 二五五一	靈元、寛文二二 二三三二	後柏原、大永元 二一八一	蝦夷地警備ノ爲出陣
廣澤安任歿ス年六十二	疫癘大ニ流行ス	出羽判官芦名盛滋卒ス	辭書
		蒲生氏郷京都ニ卒ス年四十	日記上
		夜地震ス、終日鳴動セリ	合考一二 温故
			紫野大徳寺ニ葬ラル
			碎穢ノ藥法ヲ一般ニ示 サル
			日記上

二月九日	後陽成、文祿四 二二五五	蒲生秀行襲封ス	合考一二	
二月十日	光格、寛政四 二四五五	家士ノ婦女養蠶ヲ勵ミタルモノヲ賞ス	田中	
	後陽成、慶長五 二二六〇	上杉景勝神指城ノ築造ヲ始ム	合考二三	六月初旬結構成ル温故 ニハ二月十八日トアリ
	孝明、嘉永五 二五二二	左中將松平容敬公卒ス年五十	會史	
	全、文久四 二五二四	松平容保公陸軍總裁職ニ任シ京都守護職ヲ免セラル	七史七	二月十三日軍事總裁職 ト改メラレ
二月十一日	光格、文化二 二四六五	芦名滿生二兵ノ寺院へ年々白銀ヲ供スルコト及 忠臣義士ノ古墳ハ掃除ヲ加ヘ荒蕪セシムヘカラ サルコトヲ令ス		

二月十三日	桃園、寛延三 二四一〇	若松南町弘眞院焼失ス		東宮殿下御慶事紀念ノ タメニ設立
二月十四日	光格、文化三 二四六六	松平容衆公襲封	會史	
二月十五日	平城、大同元 一四六六	此夜若梯山破裂シ更科月輪ニ莊陷落シテ湖水生 ス	温故二三	
二月十九日	靈元、天和元 二三四一	松平正容公襲封	外史、四	
	光格、天明三 二四四三	大地震		
	明治三七 二五六四	若松市立會津圖書館開館式ヲ行フ		

二月二十日	正親町、永祿九 二二二六	芦名盛氏岩瀬郡横田城ヲ攻メテ横田氏ヲ亡ホス	日記上	會津藩ニ於ケル長沼流 兵學ノ祖アリ
二月廿二日	後桃園、明和八 二四三 孝謙、天平勝寶元 一四〇九	木本成理歿ス年七十四 陸奥始メテ黄金ヲ献ス	日記上	
二月廿三日	後西院、明暦二 二二二七	始メテ院内山ニ墓所ヲ定ム	日記上	
二月廿四日	後陽成、慶長三 二二五八	上杉景勝若松城ニ入ル	合考二二 記要一	
二月廿五日	正親町、天正二 二二四三	芦名盛氏ニ寄寓セル小笠原長時（前信州松本城主）其臣坂西某ニ弑セララル	温故一	長時ノ墓ハ慶山ノ大龍 寺ニアリ

二月廿六日	光格、文化七 二四七〇	幕命ニ依リ白河城主ト共ニ相州海岸ヲ警備ス	會史	
二月廿九日	仁孝、文政五 二四八二	左少將松平容衆公卒ス年二十	會史	
二月	後陽成、慶長二〇 二二六五 靈元、貞享元 二三三四	恰原山ヨリ黄金出ツ 土津靈神言行錄成ル	温故一	先是石森山ヨリモ黄金 出テタリ 横田俊益著
	後桃園、明和八 二四三	大風民家ヲ倒ス	會史	
	孝明、嘉永五 二五二二	松平容保公襲封	會史	

三月一日	光格、天明八 二四四八	日新館創立		
三月一日	明正、寛永一六 二二九九	加藤明成若松城ヲ改築ス	合考二二 温故一	松平容頌、甲賀町口 講所狹小ナルヲ以テ地 ヲ大町通ニトシテ建設 シテ校名ヲ日新館ト稱ス 又町學校ヲ二ヶ所ニ設 ケ一ヲ督監舎(北學館) 一ヲ友善舎(南學館)ト 稱シ共ニ日新館ニ隸ス 南學館ニハ藩臣日 見以下ノ子弟ヲ入學セ シム
三月一日	光格、寛政二 二四五〇	若松市坊ノ境ヲ東西ニ分テ奉行所ヲ甲賀町口及 桂林寺町口ニ置ク	菅野權兵衛菅庄兵衛奉 行タリ	

一一一

三月三日	東山、元祿七 二三五四	安藤市兵衛有益東國物語ヲ著ス	温故二	市兵衛ハ正之公ヨリ數 代ニ歴仕シ好學精算
三月四日	孝明、元治元 二五二四	保科正之公ニ從三位ヲ追贈セラレ	事實	
三月七日	徳元、寛文一一 二三三一	赤井町ヨリ出火廊内ニ〇三土手内六七町家一九 〇寺院五計四六五月ヲ焼失ス	日記上	
三月九日	光格、寛政元 二四四九	田中支幸領内ニ桑苗ヲ賣却シテ栽培セシム	田中	
三月十日	明治七 二五三四	坂下郵便局開始 宮古橋竣工		長一三三間 工費二三、九四八圓

一一三

三月十二日	東山、元祿三 二三五〇	大風	日記	
三月十三日	光格、寛政二 二四五〇	吉内諸禮ヲ掌ルハキ司ヲ設ク之ヲ式方トイフ	嵐	
三月十四日	後土御門、文正元 二二二六	下総守戸名盛隆卒ス	嵐	
	後光明、正保二 二三〇五	材木町四二戸焼失	日記	
三月十五日	一條、永延元 一六四七	餘吾將軍平維茂蒲原郡岩谷ニ卒ス	温故四	
	後光明、正保二 二三〇五	米代一ノ丁井深監物宅ヨリ出火士屋敷數戸及三ノ丸竹藪焼失ス	日記	

三月十六日	明治二六 二五五三	若松新瀉間電信線直通ス		
三月十七日	櫻町、延享三 二四〇六	積慶録成ル		松平正容公ノ言行録ナリ
	後櫻町、明和五 二四二六	大川洪水		
三月十八日	後花園、寶徳三 二一一一	左近將監戸名盛信卒ス	日記	琴ハ天寧村愛宕神社ノ東南ニアリ
	後陽成、天正一八 二二五〇	布澤合戦	温故	伊達政宗ノ臣大波玄蕃山内氏勝ヲ破ル
	明治一〇 二五三七	佐川官兵衛豊後口ニ戦死ス年四十七	佐川	西南ノ役ナリ

三月二十日	明治四三 二五六〇	步兵第六十五聯隊渡韓ノ途ニ上ル	新記一二	韓國守備ノ爲ナリ
三月廿四日	後奈良、天文七 二一九八	若松諏訪宮火災ニ罹ル	日記上	
三月廿五日	後光明、正保四 二三〇七	家中諸士ニ罷趾ノ風ヲ變動ス	古傳	松平正容公ノ家老爲養 社城ニ祠堂アリ 墓ハ院内山麓
三月廿五日	東山、元祿一六 二三六三	西郷頼母近房歿ス	溫故三	
三月廿五日	欽明一九 一二一八	大沼郡高田村伊佐須美社殿成リ遷宮式ヲ行フ		
	後櫻町、明和五 二四二八	山形城ヲ秋元但馬守ニ引渡ス		

三月廿七日	龜元、寛文五 二三二五	材木町曹洞宗秀長寺住持大鐵、繼父實母ニ不孝 不義ノ所行アリテ磔刑ニ處セラル	日記上	
三月廿八日	鐵元、延寶元 二三三三	保科正之公ノ椽ヲ猪苗代見福山ニ葬リ號號ヲ土 津靈神トイフ	事實	
三月廿八日	平城、大同二 一四六七	河沼郡勝常村藥師堂建立		弘法大師開墓
三月廿九日	後西院、高治元 二三一八	猪苗代沼尻熱湯湧出ス	日記	
三月廿九日	桃園、寶曆一〇 二四二〇	越後津川町大火三〇〇戸焼失ス		
	後櫻町、明和四 二四二七	劇場ヲ停止ス		

三月	正親町、元龜元 二三二九	栗村下總共子笠岡平大夫栗村堰ヲ設ケ發水トス	新記五
	明正、寛永一八 二三〇一	堀主水江戸芝邸ニ毀セラレ	合考
	後西院、萬治元 二三二〇	牧場ヲ設ケ種馬ノ貸付數ヲ増ス	耶調
	東山、貞享四 二三四七	友松助十郎氏興發ス	子傳
四月一日	明治二二 二五四九	町村制施行	
	明治二三 二五五〇	會津中學校創立	
		保科正之公老臣忠勳最著ル	

四月二日	明治四二 二五六九	總川村ヲ鹽川町ト改稱ス	
四月四日	明治二六 二五五三	私立若松幼稚園開園	設立者海老名隣子
四月五日	後櫻町、明和二 二四二五	若松五ノ町高麗寺燒失ス	
四月七日	東山、寶永六 二三六九	若松大火千餘戶燒失ス	外史六
四月七日	中御門、享保九 二三八四	越後國魚沼郡ノ内高七万餘石會津藩領トナル	外史七

四月八日	孝明、元治元 二五二四	松平容保公再ヒ京都守護職ニ任セラレ	七史七	
四月十日	靈元、寛文五 二三二五	板垣備左衛門不忠不義ニヨリ扶持ヲ召放サル	日記上	
四月十一日	靈元、寛文八 二三二八	保科正之公家訓十五條ヲ撰シ自ラ家老ニ授ケ永ク子孫ノ遺訓トス	事實	
	靈元、天和元 二三四一	若松大町石工権左衛門方ヨリ出火延焼六五〇戸	日記	六月十六、十七両日トモ祭禮アリ

二〇

四月十三日	桃園、寶曆一二 二四二二	地震、此日ヨリ十五日マテ止マズ		
四月十三日	明治四二 二五六九	碩儒南摩綱紀歿ス		
四月十四日	淳和、天長七 一四九〇	大沼郡左下観音堂成リ入佛供養ス	温故三	
四月十五日	後鳥羽、建久三 一八五二	佐原義連卒ス年七十五	温故二	耶麻郡半在家ニ葬ル
四月十六日	明治三七 二五六四	福島縣立工業學校開校ス		
	光格、文化六 二四八三	新編會津風土記成リテ幕府ニ献ス		

二一

四月十七日	明正、寛永一六 二二九九 淳和、天長元 一四八五	堀主水若松ヲ出存ス 弘法大師大沼郡ニ左下觀音ヲ建立ス	合考 合考二二
四月二十日	後光明、慶安四 二三一 中御門、享保八 二三八三	保科正之公將軍家光ノ寢所ニ召サレ幼主家綱補 佐ノ命ヲ受リ 若松桂林寺町ヨリ出火延焼スルコト 一二五六戸火窟内ニ及フ	日記上 外史七
四月廿一日	仁孝、文政五 二四八二	松平容敬公襲封	會史
四月廿六日	後奈良、天文五 二一九六	若松諏訪神社火災ニ罹ル	新記二二

二三

四月廿七日	後光明、正保三 二三〇六 靈元、寛文九 二三二九	大地震 保科正之公致仕シ子正經公襲封	日記上 事實 會史
四月廿八日	靈元、寛文一〇 二二三〇 東山、寶永二 二二三五 光格、文化三 二四六六	松平容保公養子タリ 若松始メテ半鐘ヲ打チ以テ時刻ヲ報ス 會津藩刑法ヲ改定シテ死罪、永代追放、所追放、 過料、半合ノ五品トス 松平容敬公生	外史三 外史六 會史

公ハ美濃高須藩主松平
義建六男維之允ト稱セ
ラル

二三

五月一日	四月廿九日
明治元 二五二八	光格、天明六 二四四六
孝明弘化四 二五〇七	大風雨樹木ヲ倒ス
仁孝、弘化二 二五〇五	保科正之公乞食ノ爲ニ小屋ヲ建ツ
全	封内一萬石ノ地毎ニ倉ヲ造リ五斗菰ニヨリ二萬三千石ヲ蓄ヘシメ以テ凶荒ニ備フ
	和學者澤田名垂歿ス年七十一
	幕命ニ依リ房總ノ海岸ヲ警備ス
	白河城陷ル
	日記

五月三日	五月二日
明治三九 二五六六	後和原、大永元 二一八一
明治三三 二五〇三	靈元、寛文六 二三二六
若松上大和町新城方ヨリ出火北小路針屋名子屋町七日町等延焼ス	大風雨、諸川大洪水
式部少輔加藤明成國除セラレ	若松三日町ヨリ出火シ以東悉ク焼失ス
	會澤高等女學校開校
	菅名盛壽長沼氏ヲ撃チ南山ヨリ歸陣ス
	日記上
	日記 二〇一
	明治四十四年四月一日ヨリ更ニ實科ヲ設ケタリ

五月五日	孝明、文久二 二五三二	松平容保公幕政ニ參與ス	七史上	
五月五日	後水尾、寛永四 二二八七	加藤嘉明會津ニ封セラレ	合考二二	會津四郡及安積岩瀬四 十万石ヲ食ム
五月六日	後桃園、寛政一〇 二四五八	中野理八郎義都歿ス	古傳中	
五月七日	後小松、應永六 二〇五九	耶麻郡熱塩村示現寺源翁和尚遷化ス	合考二一	
	後陽成、慶長一六 二二七一	保科正之公生ル	事實 外史	
	靈元、寛文四 二二三四	上杉綱勝卒セシニヨリ保科正之公米澤藩ノ政事 ニ參與ス	事實	

五月十一日	後桃園、安永四 二四三五	賄賂ヲ禁シ儉約ヲ行ハシム		
五月十一日	正親町、天正一三 二二四五	中田付ノ戦、關柴合戦		芦名龜王丸ノ臣富田、 平田、中ノ目、等協力シ、 テ伊達政宗ノ軍ヲ破ル
五月十四日	後水尾、慶長一七 二二七二	蒲生秀行卒ス年三十	合考一九	幕ハ若松弘長院ニアリ
五月十五日	明治三 二五三〇	松平容大公從五位ニ叙シ斗南藩知事ニ任セラレ	藩歴	
五月十七日	後西院、明暦四 二三一八	戸田安左衛門一吉歿ス	古傳	大内流槍法中興ノ祖ナ リ
	光格、天明元 二四四一	大風雨、大洪水		

五月十八日	明治四三 二五七〇	ハレ！彗星見ル	二十六日ニ至リ、光七最 燦然
五月十八日	後陽成、天正一六 二二四八	高倉及觀音堂ノ職	芦名義廣伊達政宗ト戰 フ
五月十八日	靈元、寛文二二 二三三二	田中三郎兵衛正之丞歿ス	千傳ニハ五月二十八日 トアリ
五月十八日	明治三八 二五六四	若松市立會津女子技藝學校開校	明治四十四年三月三十 一日廢校トナル
五月廿一日	後陽成、慶長二三 二二六八	若松郭外ニ濠ヲ設ク	二十三日ニノ丸濠ヲ穿 ツ
五月廿四日	後村上、正平一六 二〇二一	三光國師歿ス	合考二一 記要二

五月廿五日	桃園、寛延四 二四一一	会津日報創刊	
五月廿五日	明治二 二五二九	会津日報創刊	
五月廿六日	明正、寛永一三 二二九六	伊達政宗卒ス年七十	會史 合考寛永十六年トアリ
五月廿六日	後櫻町、明和五 二四二八	鹽田權六昭矩歿ス	古傳 柔術師範
五月廿六日	後土御門、文明二 二一三九	芦名盛高高田館ヲ襲ヒ高田氏ヲ亡ス	

五月廿八日	後光明、承應元 二三一二	小川庄長吉村孝十次郎左衛門ニ町扶持ヲ賜フ	日記上	
五月三十日	明治三一 二五五八	故田中支宰漆器ノ製作ト漆樹ノ栽培トニ盡力セシ功ニヨリ農商務大臣ヨリ追賞セラレ	田中	
五月	靈元、寛文四 二三二四 全 寛文八 二三二八 明治三六 二五六三	横田俊益稽古堂ヲ若松五ノ分町ニ設ケ如獸ヲ延イテ主宰トス 保科正之公編スル所ノ二程治教録及ヒ伊洛三千傳心録上梓成ル 大沼郡本郷村本郷町ト改稱ス	事實	若松地方學校ノ楳與ナリ

三〇

六月一日	後陽成、天正二七 二二四九 全 文祿元 二二五二 後西院、明暦元 二三一五 桃園、寛延三 二四一〇	栗村盛國伊達勢ヲ猪苗代ニ引入ル 蒲生氏郷黒川ノ城廓ヲ修理シ又市街ヲ改制シ毎月ノ市日ヲ定メ市名黒川ヲ若松ト改ム 御仕置條目ヲ改定ス之ヲ明暦十七ヶ條トイフ 霜降ル	合考一二 要記一一 新記一一 外史二 日記中	若松ハ近江蒲生郡若松森ニ因ミテ命名セリト云フ
六月二日	後奈良、天文一九 二二一〇	芦名盛氏田村隆顯ヲ小田倉原ニ破ル		
六月三日	後冷泉、天喜五 一七一七	源義家塔寺八幡宮ヲ建立ス	合考二二	

三一

六月五日	後陽成、天長一七 二二四九	若松愛宕町ヨリ出火延焼一六九〇戸	合考六 温故二	三忠碑、嘉永三年十二月ノ建立ナリ
六月四日	後土御門、明應三 二一五四	澤簡徳若松縣權令ニ任セラレ	合考一	
	正親町、天正三 二二三三	三浦兼載卒ス年五十九	事實	
	明治二 二五二九	渡邊彌三左衛門光豊歿ス	佐川	
	明治七 二五三四	蒲生秀行耶麻郡平林村下柴村用水ノ訴訟ヲ裁シテ其使用ノ制ヲ定ム	日記上	
	寛文一 二二三二	陶器ノ製造ヲ改良シ職工戒佈ノ掟ヲ定ム		
	寛元、寛文一 二二三二			白井新兵衛吉重會津藩事雜考ヲ編ス

三三

六月九日	光格、文化二 二四六五	田中	
六月七日	後陽成、慶長九 二二六四	史料一二	
六月六日	光格、文化二 二四六五	古傳下	
	後柏原、永正七 二一七〇	日記六	兼載連歌ニ長ス
	明治六 二五三三		明治七年九月三日縣令ニ任セラレ
	後桃園、安永二 二四三三		

三三

六月十日	後陽成、天正一七 二二四九	芦名義廣黒川城ヲ棄テ、常陸ニ遊ル	舊記一
六月十一日	全	伊達政宗黒川城ニ入ル	合考七 嵐二〇
六月十二日	仁孝、文政四 二四八一	松平容大公薨ス	古傳
六月十三日	明治三八 二五六五	盛田菽之丞昭博歿ス	柔術師範
六月十四日	正親町、天正一二 二二四四	馬場中二之町ヨリ出火下二之町三之町ニ延焼シ 一二〇餘戸ヲ焼失ス	合考一
六月十五日	正親町、元龜三 二一六三	松本太郎栗村下総其主芦名盛隆ニ叛ス	

三四

六月十四日	明治二九 二五二九	林徹之丞若松縣權知事ニ任セラレ	
六月十七日	後宇多、弘安二 一九三九	大沼郡酒井邑江河長者常俊觀音ヲ造リ後寺ヲ建 立シテ弘安寺ト號ス	合考二一 今中田村弘安寺是ナリ
六月十八日	正親町、天正八 二二四〇	修理大夫芦名盛氏卒ヌ年六十	合考一 舊記三 嵐二〇 芦名氏中興ノ主墓ハ小 田村ノ東ニアリ
六月十九日	光格、天明三 二四四三	大風雨 大洪水	日記
六月廿一日	明治二九 二五二九	國老荻野權兵衛長修死ヲ賜ハル	
六月廿二日	高田伊佐須美大明神宮殿燒亡ス		溫故三

三五

六月廿二日	後奈良、大永元 二二八一	鷺ヶ城本城ノ石壁修築成ル	記	
六月廿三日	後桃園、安永六 二四三七	湯川大洪水	日記	
六月廿四日	桃園、寶曆八 二四一九	旱魃	日記下	此日ヨリ八月六日マテ 雨降ラス
六月廿五日		小平瀧天満宮祭禮	舊記六	
六月廿六日	明治四一 二五六九	歩兵第六十五聯隊若松ニ入城ス		

六月廿八日	後奈良、天文五 二一九六	白塚大洪水	温故	
六月廿九日	孝明、文久三 二五二三	孝明天皇松平容保公ニ密詔ヲ賜フ	七史	
六月	後陽成、慶長九 二二六四	若松自然山融通寺勅願寺ニ列ス	温故一	大川鷺沼郡一延トナリ 塔寺坂下間水深八尺餘 柳津盧空瀝ノ鏡樓浸ル

七月一日	明治五 二五三二	若松、高田、喜多方、田島、郵便局ヲ置カル		
七月二日	明治四〇 二五六八	河沼郡野澤村、野澤町ト改稱ス		
七月二日	稱光、應永二七 二〇八〇	葦名盛政新宮時兼ヲ新宮城ニ攻メテ之ヲ亡ス		
七月二日	明治四三 二五七〇	松平保男公襲爵		
七月二日	中御門、享保七 二三八二	小栗山村農夫栗田喜四郎死刑ニ處セラシ		
				代官某ノ唐政ヲ幕府ニ直訴シ南山御藏入ノ窮民ヲ救フ

七月四日	後陽成、天正一六 二二四八	窪田合戦		
七月四日	全 二二四九	一七 佐竹義重芦名義廣ノ爲ニ伊達政宗ト久保田ニ戦フ	合考七	
七月四日	明正、寛永二〇 二三〇三	保科正之公會津二十三万石ニ封セラシ	日記上	
七月五日	光格、享和二 二四六二	田中支幸會津産漆器ヲ支那及和蘭人ニ貿易販賣ヲ試ム	田中	
七月五日	後陽成、慶長七 二二六二	煙草賣買作付ヲ禁ス	會史一	
七月五日	靈元、寛文七 二三二七	靈養神社再建	日記上	
				葦名義廣郡山城ヲ攻ムニ伊達政宗來リ救ヒ窪田ニ戦フ

七月六日	明治四 二五三一	鷺尾隆繁若松縣權令ニ任セラル	
七月七日	正親町、元龜二 二二三一	芦名盛氏女婿白川義親ヲ授ケテ佐竹氏ト戦フ	
七月八日	後陽成、天正一七 二二四九	伊達政宗其臣原田左馬介ヲシテ横田城主山内氏 時ヲ撃タシム	
七月九日	後櫻町、明和元 二四二四	保科正之公山形城預リノ命ヲ受ク	
七月九日	後光明、慶安四 二三一一	星アリ月ヲ貫ク	日記上
七月十一日	正親町、天正一四 二二四六	伊達政宗二本松城ヲ陥レ島田氏妻子會津ニ入ル	

七月十三日	後陽成、天正一八 二二五〇	蒲生源右衛門二本松城代トナル	合考九 溫故三 提要一
七月十四日	全 文祿四 二二五五	蒲生秀行再ヒ會津ニ封セラレ此日入國ス	提要一 嵐二〇
七月十五日	後龜山、天授九 二〇三五	源翁和尚耶麻部熱田村示現寺ニ入ル	合考二一
七月十五日	嵯峨、弘仁三 一四七二	河沼郡柳津虚空藏堂成リ入佛式ヲ行フ	溫故三
七月十五日	明治二一 二五四八	磐梯山噴火、秋元、檜原、雄子澤ノ三湖生ス	

七月十九日	七月十七日	七月十六日
孝明、元治元 二五二四	平城、大同二 一四六七	明治三二 二五五九
京都蛤門ノ戦	河沼郡勝常村二十一親世首ヲ安置ス	岩越鐵道郡山若松間開道ス
元記地 七史八	日記上	日記上
會津藩士死傷四十六人	現國庫保護建造物タリ	

七月廿七日	七月廿五日	七月廿一日
後光明、正保三 二三〇六	後柏原、永正一三 二一七六	後奈良、天文一二 二二〇三
大雨大洪水	河沼郡慈隆寺境内櫻花開クコト春ノ如シ	芦名盛氏、山内、河原田二氏ヲ伊南伊北ニ撃テ之ヲ降ス
日記上	溫故三	事實
		二十万石食ム
		宮古量水標 一丈六尺ヲ示ス

七月卅一日

明治一四
二五四一

猪苗代湖疏水工事成ル

明治三六
二五六一

高田橋竣工ス

長二九〇間
工費一五、六三二圓

七月

正親町、天正九
二三四一

芦名盛隆田村清顯ノ御代田城ヲ攻メテ之ヲ破ル

四四

八月一日

孝明、文久二
二五二二

松平肥後守容保公京都守護職ニ任セラレ

七史上

時二年二十八
十二月二十八日入京

八月二日

後桃園、安永元
二四三二

大洪水田圃ヲ浸スコト六〇〇餘町

八月五日

後櫻町、明和元
二四二四

若松二ノ町吉右衛門磔刑ニ處セラレ

日新館ニ安置セル孔子
像ヲ盗ミタルニヨル

孝明、文久三
二五二三

松平容保公京都建春門前ニ於テ馬捕ヲ
供ス

七史上

八月六日

後西院、寛文元
二三二一

保科正之公家中ノ殉死ヲ禁ス

日記上

靈元、寛文六
二三二六

會津風土記成ル

事實
外史二
日記上

古風土記ト呼ハル會津
圖書館ニ藏セリ

四五

八月七日	後花園、寶徳三 二二一一	猪苗代盛光濱崎頼貞ヲ濱崎城ニ攻ム	古傳中
	正親町、永祿三 二二二〇	芦名盛氏佐竹義重ノ兵ト白河附近ニ戦ヒテ捷ツ	
	光格、文化五 二四六八	田中三郎兵衛ヲ奉養ス年六十一	古傳中
八月八日	後奈良、天文一六 二二〇七	芦名盛氏伊達氏ト戦ヒ長井ニ突出ス	
	明正、寛永二〇 二三〇三	保科正之公若松城ニ入ル	日記上 提要一〇 嵐二〇
	後櫻町、明和六 二四二九	年貢蠲方漆蠲方拂蠲方ノ三員ヲ合セテ蠲漆木方トス	

八月十日	後陽成、天正一八 二二五〇	豊臣秀吉白河ヨリ勢至堂、黒糸脊矢ヲ越エテ黒川城ニ入り奥羽ノ成敗ヲ行フ	合考一〇 温故一〇	秀吉與徳寺ニ館ス 提要ニハ十月ニアリ
	後西院、明暦元 二三一五	大風雨大洪水	日記上	
	明治四三 二五七〇	暴風雨湯川大洪水		
八月十一日	後陽成、天正一八 二二五〇	藩生氏郷會津仙道伊達信夫白石百二十万石ニ封セラレ	合考一〇 温故一〇	提要十月トアリ
八月十五日	桃園、寶暦一二 二四二二	大地震		
	後桃園、安永四 二四三五	大風雨作物ヲ害ス		

八月十六日	後陽成、天長一六 二二四八	菅名伊達兩氏郡山ニ於テ和ヲ結フ	外史一
八月十七日	中御門、享保九 二三八四	松平容貞公生ル	
	明治一四 二五四一	始メテ猪苗代湖ニ汽船ヲ泛フ	
八月十八日	明治四一 二五六八	有栖川宮威仁親王殿下 翁島御別邸ニ入御アラ セラレ	
	安徳、文治四 一八四八	源義經耶麻郡油田村ヲ通過ス	温故四
	元元、寛文七 二三二七	大洪水	日記上

八月十八日	中御門、享保一九 二三九四	御家訓拜聴ノ日ヲ毎年三度卜定ム	外史一
八月十九日	光格、文化二 二四六五	松平容住公襲封	會史
八月廿一日	後奈良、天文二二 二二二二	遠江守菅名盛舜卒ス	嵐二〇
	後陽成、慶長一六 二二七一	大地震 山崎湖現出ス	合考二二 温故二二
	明治元 二五二八	石越ノ關門敗レ西軍猪苗代ニ入ル	佐川
	明治九 二五三六	若松縣ヲ廢シテ福島縣ニ合ス	

八月廿二日

東山、元祿一二
二三五九

布引山境界論裁決ス

明治元
二五二八

戸ノ口ノ戦

明治四二
二五七〇

韓國皇太子殿下若松市ニ行啓アリ

八月廿三日

後宇多、永仁二
一九五四

若松諏訪神社勸請

後醍醐、建武二
一九九五

大夫判官芦名盛良河越ニ戦死ス

正親町、天正九
二二四一

芦名盛隆其臣金上盛備ヲシテ黄金三十兩ヲ大上
帝ニ献セシム

五〇

合考二一

芦名盛宗ノ時信州下ノ
宮ヨリ勸請セリ

會史

溫故一

先帝後奈良天皇ハ弘治
三年崩御セラレタレバ
此時大上帝ナシ或ハ天
皇ノ誤カ

八月廿四日

後花園、長祿二
二一一八

芦名盛詮其臣金上氏ヲシテ伊達氏ヲ撃タシメ利
アラス

明治元
二五二八

西軍若松城下ニ入ル白虎隊士飯盛山ニ自刃ス

全

野矢常方戦死ス

奥羽六

八月廿五日

光格、天明三
二四四三

酒ヲ禁ス

八月

後陽成、慶長六
二二六一

上杉景勝羽州長井ニ移サル

全 慶長二六
二二七一

河沼郡小杉山村山崩レ男女九十三人壓死ス

溫故三

五一

後西院、明暦元 二三一五	保科正之公社会ヲ設ク	外史三
寛元、延寶三 二三三五	會津増風土記成ル	
全貞享二 二三四五	稽古堂主將如默等七人等ニ坐シテ小川庄ニ論セラル	
東山、元禄元 二三四八	條令十二章ヲ藩内ニ布キ藩士ハ郭内講所ニ庶民ハ郭外稽古堂ニ入りテ學ハシム	

九月一日

後水尾、寶永三
二二八六

餅、酒、豆腐、餡、たこしノ賣買ヲ禁ス

會史三

九月二日

中御門、享保一三
二三八八

大雨大洪水流屋多シ

日記中

安徳、養和元
一八四一

越後太守城長茂會津四郡及越羽ノ兵ヲ發シテ木曾義仲ヲ伐ツ

九月三日

後光明、正保元
二三〇四

大戸宮内左衛門直光歿ス年百十六

古傳一

後櫻町、寶曆一三
二四二三

大風雨大洪水

明治二
二五二九

四條隆平若松縣知事ニ任セラル

九月六日	中御門、享保九 二三八四	大風樹ヲ抜キ家ヲ倒ス	日記中
九月七日	後西院、明暦二 二三一六	御藏入伊北郷黒澤村盲人長齋孝行ニヨリ扶持ヲ賜ハル	日記上
九月八日	後土御門、文明二六 二二四四	芦名盛高二階堂氏ト岩瀬ニ戦ヒテ捷ツ	田中
九月九日	光格、寛政四 二四五二	藩材木町ニ酒藏ヲ建ツ	合考二一
	安徳、養和九 一八四一	惠日寺僧淨丹信州横田河原ノ戦ニ討死ス	
	後奈良、天文二三 二二二四	覺成上人寂ス	梁間五間奥行七十間 酒桶百本
			墓ハ河沼郡勝常村ニアリ

五四

九月十日	後水尾、寛永四 二二八七	耶麻郡村松地内ニ漆苗ヲ植付ケ枝葉ノ折採ヲ禁ス	會史一
	中御門、享保一五 二三九〇	肥後守松平正容公卒ス年六十三	新記三
	光格、寛政二〇 二四五八	益田大三郎昭方歿ス	古傳下
	明治四一 二五六八	皇太子殿下若松市ニ行啓アリ	柔術ノ達人ナリ
九月十一日	圓融、天祿三 一六三二	空也上人寂ス年七十	新記八六
九月十二日	明正、寛永八 二二九一	加藤嘉明江戸ニ卒ス	提要一
			河沼郡冬木澤八葉寺開祖

五五

九月十五日	後陽成、慶長五 二二六〇 靈元、寛文六 二三二六 後陽成、慶長一五 二二七〇 後陽成、慶長五 二二六〇 後水尾、元和三 二二七七 全 元和六 二二八〇	上杉氏ノ將直江兼續最上義光ノ幡谷城ヲ陷ル 大風 上杉景勝岩瀬郡長沼ニ出陣ス 直江兼續最上氏ノ將志村高治ヲ長谷堂ニ攻メテ之ニ捷ツ 大地震家屋破壊ス、三依沼生ス 漆樹増植ヲ耶麻郡高柳村ニ令ス	日記上 日記上 新記五
-------	--	--	-------------------

九月十六日	後櫻町、明和四 二四二七 光格、享和三 二四六三 靈元、天和二 二三四二	鶴ヶ城三ノ丸ニ八幡宮ヲ勸請ス 松平容衆公生ル 山崎闇齋歿ス年六十五 次郎水大洪水	會史 辭書
九月十九日	明正、寛永八 二二九一	大船ヲ造リ猪苗代湖ニ浮フ	温故四 柳津鐘樓流レ鐘河中ニ沈ム白鬚水ヨリ高キコト三尺二寸
九月廿二日	後櫻町、明和五 二四二八	若松城陷ル	佐川 松平容保公流澤妙國寺ニ謹慎ス
九月廿三日	明治元 二五二八		

九月廿五日	後花園、享徳二 二一三	芦名盛澄濱崎越川ニ戦ヒテ松本右馬允ヲ殺シ猪苗代氏ヲ降ス	合考二	若松市瑞雲山興徳寺ノ開山
九月廿六日	光格、天明二 二四四二	若松七日町池田屋ヨリ出火三〇七戸ヲ延焼ス	辭書	
	後二條、徳治元 一九六六	大圓禪師遷化ス	合考二	
	靈元、貞享二 二三四五	山鹿素行歿ス年六十四	新記三 外史八	
九月廿七日	後村上、正平一三 二〇一八	大光禪師寂ス年七十七	合考二	若松市寶相寺ノ開山
	桃園、寛延三 二四一〇	肥後守松平貞容公卒ス年三十二		

九月廿八日	明治二 二五二九	松平容保公禁錮ヲ赦サル		
	明治三五 二五六二	大洪水		宮古量水標 一丈七尺ヲ示ス
九月廿七日	後西院、明暦二 二三一六	耶麻郡小平濱村清十郎孝行ニヨリ扶持ヲ賜ハル	日記上	
九月三十日	後櫻町、明和四 二四二七	大地震、節約ノ令下ル		
	後陽成、慶長六 二二六一	蒲生秀行再ヒ會津ニ封セラレ		
九月	靈元、寛文五 二二二五	玉山講義附録成リ一部ツ、伊勢宮崎ノ神庫並ニ會津ノ大社ニ納メシム	事實	

後櫻町、明和四 二四二七	若松石塚觀音寺徒ノ町法林寺、等ニ令シテ時鐘ヲ撞カシム		
後桃園、安永四 二四三五	痘瘡流行ス		
後鳥羽、文治五 一八四九	佐原義連會津ニ封セラレ	温故一	源頼朝奥羽ヲ定メ佐原 義連ニ會津四郡越後二 郡野國鹽谷郡越後國 蒲原郡及白河郡合セ テ十郡ヲ賜ヒ又山形長 基ニ伊北横田城ヲ長 宗政ニ田島鷺山城ヲ河 原盛光ニ伊南青柳城ヲ 賜フ佐原氏ハ今ノ北會 津森ノ内ニ住セリ

十月一日	明治一二 二五三九	若松天主教會創立	新記三	基督教舊教始メテ會津ニ布教ス
十月二日	後水尾、慶長二〇 二二七五	僧天海寂ス	辭世	
十月三日	靈元、天和元 二三四一	待從保科正經公卒ス年三十六	新記三	
十月五日	正親町、永祿四 二二二一	芦名盛氏再ヒ徳政ヲ行フ	温故二	
十月六日	正親町、天正一二 二二四四	芦名盛隆其臣大庭三左衛門ニ弑セララル年二十四	合考一 温故一	幕ハ小田村ニアリ
	後桃園、安永八 二四三九	灰降ル、四五日止マス		

十月八日	孝明、文久三 二五二三	孝明天皇松平容保公ニ宸翰及ヒ御製ヲ賜フ	七史六	文久四年二月八日極樂 宸翰ヲ全三月十六日又 宸翰ヲ賜フ
十月九日	光格、文化五 二四六八	蝦夷地警備隊歸陣ス		
十月十日	後陽成、天正二〇 二二五二	京都知恩寺三十世ノ住職巖州寂ス年六十八	新記八九	河沼郡青木村ノ産ナリ
十月十四日	明治四二 二五六九	坂下町ニ電話開始ス	日記上	
十月十六日	靈元、寛文七 二二二七	林春齋會津山水賦ヲ撰述ス		
十月十八日				

十月廿二日	後桃園、安永元 二四三二	今村傳十郎統勝歿ス	古傳一	
十月廿三日	中御門、享保一六 二三九一	松前氏丹頂鶴一對鷲二十羽臘膺臍二疋ヲ會津ニ 贈ル	外史八	
十月廿四日	靈元、寛文八 二三二八	松平容貞公襲封ス	日記上	保科正之公著
十月廿五日	後水尾、元和八 二二八二	二程治教終成ル	會史一	
十月廿七日	明治一七 二五四四	蠟漆ニ交セ物スルヲ禁ス		
		合津三方道路開通式ヲ行フ		三條相國大木參議臨席 ス

十月	明正、寛永一三 二二九五	會津神社志成ル	事實	先是(寛文九)友松氏與 木村忠成服部安休命ヲ 奉シテ封内ノ神社ヲ調 ヘ會津神社志ヲ編纂ス ココニ至リテ成ル
明正、寛永二〇 二三〇三	保科正之公輕井澤銀山ノ制ヲ定ム	新記		
後光明、慶承三 二三一四	種馬五十頭ヲ市村ニ貸シ蕃殖ヲ圖ル	耶調		
明治三〇 二五三〇	齋會津蒲士斗南ニ移住ス	藩歴		

十一月一日	光格、文化四 二四六七	松平容保公蝦夷警固ヲ命セラレ	略記
十一月三日	明治一三 二五四〇	月ノ口十六橋落成ス	
十一月四日	明治二 二五二九	朝廷松平容大公ヲシテ家名ヲ立テシメ華族ニ列 シ陸奥斗南ノ地三万石ヲ賜フ	佐川
十一月八日	後光明、承應三 二三一四	迅雷	日記上
十一月十一日	桃園、寶曆一〇 二四二〇	大雪潰家アリ	日記下
十一月十二日	明正、寛永八 二二九一	保科正之公鑿封屍後守ニ任セラレ	會史

先是十月七日保科正光
公卒セシニヨル

十二月十二日	櫻町、元文五 二四〇〇	八品留物ノ令下ル	會史	八品トハ杉、五葉松、桐、桂、檜、楓是ナリ
十二月十二日	桃園、寛延三 二四一〇	松平容頌公襲封	會史	
十二月十三日	靈元、寛文八 二三二八	田中玄宰ノ議ニヨリ漆器業ヲ獎勵ス	日記上	
	東山、元祿四 二三五一	當年旱魃ニ付御藏入井ニ私領百姓賑恤ノ令出ツ		
	後櫻町、明和四 二四二七	僧如默耶麻郡真木村ニ寂ス年七十八		
		令シテ産子ヲ害スル惡弊ヲ禁ス		

十一月廿四日	明治三八 二五六五	海軍中將角田秀松薨ス		
十一月廿三日	後桃園、安永七 二四三八	松平容住公生ル		
十一月廿一日	正親町、天正一四 二二四六	芦名龜王丸逝去		
十一月廿三日	後光明、正保三 二三〇六	小川庄長谷村肝煎次郎右衛門孝行ニヨリ褒美ヲ賜ハル	日記上	
十一月廿四日	桃園、寛延二 二四〇九	猪首代ノ百姓等強訴ス		

十一月廿九日	後水尾、元和二 二二六七	他國ト漆ヲ賣買スルヲ禁ス	會史一	
十一月	後西院、明曆元 二二二一五	保科正之公加藤氏ノ遺臣横田俊益ヲ聘シテ儒臣トス	外史	土津ノ靈號ハ寛文十一年十一月十七日惟足ガ奉ルナリ
	全 寛文二 二二二二二	保科正之公吉川惟足ヲ招キ神書講談ヲ聽ク		
	聖元、寛文一一 二二二二二	弘文院學士林恕同息林整會津風土記ノ序ヲ撰ス		
	後櫻町、明和四 二二四二七	青木村惠林寺及若松大町寶成寺等ニ命シテ時鐘ヲ撞カシム	日記上	青木村ハ今北會津郡ニ屬ス

十二月一日	仁孝、文政二 二四七九	大竹喜三郎政文歿ス	古傳下	會津藩ノ和學創始者
	明治三四 二五六一	若松市始メテ電燈ヲ点ス	日記上	
	明治四一 二五六八	若松電話交換局開始		
十二月二日	後光明、承應三 二二二一四	物頭井上治右衛門預足輕太兵衛養子傳三郎酒狂ラ母ニ負傷セシメタル罪ヲ以テ火烙ノ刑ニ處セラル		

十二月五日	光格、安永九 二四四〇	凶作ニ付城米一三、五〇〇俵ヲ出シテ賑恤ス		
十二月七日	明治二六 二五五三	松平容保公薨ス	忠誠靈神ト諡ス	
十二月八日	後柏原、永正三 二一六六	修理大夫青名盛高卒ス		
十二月九日	明治元 二五二八	陸奥ヲ五ヶ國ニ出羽ヲ二ヶ國ニ分ツ	會史	
十二月九日	明正、寛永二〇 二三〇三	沼澤出雲重通猪苗代城代ヲ命セラル	嵐二〇	沼澤村今北會津郡ニ屬ス

七〇

十二月十三日	東山、元祿九 二三五六	保科氏松平ノ姓及葵ノ紋章ヲ賜ハル	外史	先是寛文八年二月三日 下命アリシカ正之公之 ヲ因辭スコ、ニ至リテ 大老井伊掃部頭内旨ヲ 傳ヘ辭スル事ヲ許サス
十二月十四日	孝明、慶應三 二五二七	松平容保公京都守護職ヲ辞ス	元記天	
十二月十四日	明治四三 二五七〇	喜多方山都間鐵道開通ス	温故三	
十二月十七日	明正、寛永一二 二二九五	伊佐須美大明神宮殿再建	合考二二	
十二月十七日	後奈良、天文二〇 二二一一	攝、關、幕府、京都守護職等廢セラル		

七一

十二月十八日同二十日
ニモ倒懸アリキ

十二月十八日	靈元、寛文一二 二三三二	保科正之公江戸三田邸ニ卒ス年六十二	外事 實天 日記上
十二月十九日	後櫻町、明和七 二四三〇	義倉ノ法ヲ停ム	
十二月二十日	光格、文化二 二四六五	松平容住公卒ス年二十八	
十二月廿一日	明治四二 二五六九	喜多方電話交換局開始	
十二月廿二日	桃園、寛延二 二四〇九	猪苗代附近農民蜂起ス	
	後桃園、安永四 二四三五	凶作ニヨリ城米七、五〇〇俵ヲ出シテ納所方ノ 用トス	世之ヲ金田騷動ト稱ス

七二

十二月廿五日	後桃園、安永元 二四三二	節約ノ爲家老以下ノ知行ヲ減ス	外史三
十二月廿六日	後櫻町、明暦六 二四二九	領内農民ノ逋債ヲ免除ス	
十二月廿七日	後光明、正保三 二三〇五	保科正經公生ル	
十二月廿八日	仁孝、文政三 二四八〇	總房海岸ノ警備ヲ免サル	
十二月廿九日	仁孝、天保六 二四九五	松平容保公生ル	

七三

十二月			
後光明、承應元 二二二二	保科正之公幕府ノ醫員土岐長元ニ命シテ輔養爲 ヲ纂セシメ之ヲ大將軍ニ献シ且其侍臣ニ贈ル	事實	
東山、元祿元 二二四八	稽古堂ヲ甲賀町ニ移ス		元祿三年四月町講所ト 改稱ス
桃園、寶曆元 二四二一	沼尻温泉會津領ト決ス		

崇神一〇 五七三	大彦命武浮河別命父子相津ニ相遇フ	記 温故一	
欽明 一一〇〇	唐梁ノ僧會岩河沼郡蛭川莊根岸村ニ至リ庵ヲ結 フ	温故三	
欽明 一一二二	伊佐須美神靈大會津郡波左間山頂(今大沼郡大 岩村明神岳)ヨリ大沼郡高田南原ニ飛移リ給フ	温故三	維考ニハ一一二一年大 沼郡高田伊佐須美社明 神岳ヨリ勸請トアリ
孝德、大化元 一三〇五	陸奥ノ國號起ル		
孝德、白雉元 一三二二	知通和尚、役小角二人飯豊山ヲ開ク	温故二	
齊明、 一三二八	蓮空上人河沼郡根岸村ニ來リ唐僧音岩ノ結庵ヲ 改メテ石塔山惠隆寺トス	温故三	

元明、養老二 一三七八	石背國ヲ置ク		
元正、養老四 一三八〇	得道上人大沼郡雀林村ニ法用寺ヲ建立シ自ラ十 一面觀音ヲ刻ミテ安置ス	雜考一 溫故三	
聖武、天平元 一三八九	僧行基羽黑山東光寺ヲ建立ス	雜考一	
桓武、延暦元 一四四二	傳教大師小川莊ニ西山醫王寺ヲ建立ス	雜考一	
平城、大同二 一四六七	弘法大師磐梯山惠日寺ヲ建立ス 弘法大師熱鹽村ニ慈眼寺ヲ建テ溫泉ヲ發見ス	溫故二	
平城、大同三 一四六八	坂上田村麿弘法大師ノ勸化ニヨリ稻川莊ニ惠隆 寺ヲ建ツ	雜考一	
			今、院内トイフ北會津 郡ニ屬ス後声名氏信仰 シテ祈禱所トス

平城、大同四 一四六九	河沼郡藤倉村地藏堂建立ニ階堂ト号ス	溫故三	
全	奉勅 伊佐須美大明神ヲ奥州ニ宮正一位ト号ス	全	明治三六年四月 國家保護建造物ニ指定 セラレ
嵯峨、弘仁二 一四七一	僧空海靈養國神社ヲ創建ス	溫故一	若松ニアリ
嵯峨、弘仁三 一四七二	僧空海耶麻郡大塩村ニ鹽泉ヲ發見ス	溫故二	
醍醐、延長五 一五八七	靈養國神社延喜式内ニ入ル	雜考一	
村上、康保元 一六二四	空也上人河沼郡冬木澤ニ八葉寺ヲ建立ス	全二	

後一條、万壽三 一六八六	耶麻郡小平瀨天神勸請	溫故二	
後冷泉、天喜五 一七一七	源義家一箕山八幡宮ヲ創建ス	全一	一説寛治六年（一七五 二年）一箕、今北會津 ニ屬ス
全	河沼郡塔寺八幡宮造營成ル	全三	
後鳥羽、文治二 一八四六	源義經河沼郡藤倉ヲ通過ス		鬼一法眼女皆鶴姫義經 ヲ墓ヒ藤倉ニ來リシカ 義經既ニ過キ去リテ三 日ナリ死セリト云フ
安徳、建久二 一八五二	芦名經連龜ヶ城ヲ築ク		

後宇多、建仁元 一九三五	田邊義秀耶麻郡新井田村ヲ開ク	新記五	
後宇多、弘安一〇 一九四七	西蜀ノ人覺圓（大圓禪師）黒川興徳寺ヲ草創ス	新記一二 溫故一	開祖大光禪師
後醍醐、天應元 一九七九	若松安吉山實相寺開山		
後村上、正平四 二〇〇九	河沼郡塔寺八幡社所藏ノ長帳ハ此年ヨリ記載ス		
後村上、正平二〇 二〇二八	示現寺源翁山郡慶徳村ニ來リ庵ヲ結フ郡司爲ニ 一寺ヲ建立ス慶徳寺是ナリ	雜考	
後龜山、天授五 二〇三九	梁田俊信芦名直盛ニ從ヒテ鎌倉ヨリ來リ若松大 町ニ住シ市祭ヲ始メ商人ノ司長トナル	新記一六	

後龜山、元中元 二〇四四	若名直盛黒川小田山城ヲ築キ小館ヨリ移住ス	温故一	若松融通寺町ナル城安 寺ハ小館ノ跡ナリ
全	小田山城ヲ鶴ヶ城ト名ケ市井ヲ黒川ト改ム	全二	
後龜山、元中九 二〇五二	僧日什寂ス	新記一五	
稱光、應永三二 二〇八五	僧秀哉若松彌勒寺ヲ開基ス	温故三	
後花園、永享元 二〇八九	松本實輔父子大沼郡松澤村松澤寺ヲ建立シ梅山和尙ヲ開基トス	會史一	
後花園、寶徳元 二一〇九	若名盛久漆樹ノ栽培ヲ勸ム		

後土御門、文明六 二一三四	若松高殿寺創立 僧友傳ノ開山ニシテ其徒弟友天ヲ開基トス	新記四
後柏原、永正元 二一六四	此年飢饉、會津ニテ米價壹升百錢	合考二二
後奈良、享祿三 二一九〇	此年及翌年豊作、會津ニテ米價壹升十五錢	全
後奈良、天文七 二一九七	鶴ヶ城火災ニ罹ル	新記一一
後奈良、天文一〇 二二〇一	鶴ヶ城再築ニ着手ス	三年ヲ經テ落成セリ
後陽成、天正一八 二二五〇	蒲生氏郷佐藤和泉全新助等ヲシテ會津ニ木地掬ヲ廣メシム	新記三

後陽成、文祿二 二二五三	蒲生氏郷播磨國ヨリ石川久左衛門ヲ招キ小田村ニテ瓦ヲ燒キ始ム	新記五	小田村今北會津郡ニ屬ス
後陽成、慶長四 二二五九	神田右馬允季順耶麻郡下小出村ヲ開ク	新記五	
全 二二六一	會津四郡ノ漆樹ヲ調査シ木實ヲ上納セシム	會史一	
全 二二六三	年貢蠲ノ上納ニ改ム	全	
全 二二六三	石盛山ヨリ金ヲ採掘シ始ム	舊記三	小屋千七百軒ヲ建テ寛文ノ頃マテ採掘セリ
後水尾、慶長二〇 二二七五	河沼耶輕井澤ノ農善吉銀礦ヲ發見シ採掘ヲ始ム	會史四	

全 二二八三	天和九	遠藤九郎右衛門河沼郡金澤新田ヲ開ク	新記五
全 二二八四	寛永元	福原嘉左衛門河沼郡福原新田ヲ開ク	全
全 二二八七	寛永四	佐藤源左衛門河沼郡中村新田ヲ開ク	全
全 二二八九	寛永六	脊矣路ヲ廢シ澁澤路ヲ往還ス	溫故一
全 二二九五	寛永一二	加藤嘉明役漆液ヲ上納セシム	會史一
明正、寛永一二 二二九五		大堀善右衛門耶麻郡上原新田ヲ開ク	新記五

全 寛永一五 二二九八	加藤氏田邊仁右衛門ヲ頭トシテ軍備ノ爲ニ耶麻郡五十間新田ヲ開ク	新記四	
後光明、正保二 二二〇五	藩、水野源右衛門二月俸ヲ與ヘ、大沼郡本郷村ニ於テ陶器ヲ製造セシム	温故三	水野ハ美濃國瀬戸村ヨリ來リシモノナリ
全 宮城八左衛門耶麻郡吉田新田ヲ開ク		新記一四	
全 正保三 二二〇六	始メテ落合新橋ヲ架ス	日記上	
全 明曆三 二二一七	佐原吉左衛門河沼郡牛澤郷ヲ設ケ宮川ヲ引キ渠ヲ穿ツコト二里十七町余三年ニシテ成ル	新記五	
後西院、万治元 二二一八	耶麻郡慶徳村西山ノ尾忽然東ニ歩ム村老之ヲ代官山岸彌惣右衛門ニ告ケ杭ヲ打チタルニ百歩ノ外ナリ	日記上	

全 万治三 二二二〇	大鹽平左衛門耶麻郡雄國新田ヲ開ク	新記六	
全 寛文元 二二二一	夏ヨリ秋マテ飢饉米價金壹両ニ九斗二升ナリ此年豊作金壹分ニ付米九斗二升ニ至ル	日記上	
全 寛文二 二二二二	荒井新四郎 强清水新田ヲ開ク	温故三	
靈元、寛文六 二二二六	保科正之公封内ニ令シテ私ニ樹ヲ造ルヲ禁ス	事實	
全 寛文一 二二三一	此年冬雪降ラス	日記上	
	安藤市兵衛ノ議ヲ容レ常平法ヲ行ハシム四民大ニ之ヲ便トス	事實	會津圖書館常平法ノ寫ヲ藏ス

全 三三三二	全 三三三二	全 三三三二	全 三三三二	全 三三三二	全 三三三二
向井好重會津舊事雜考ヲ著ハス	谷野又右衛門河沼郡谷野新田ヲ開ク	保科正經公耶麻郡土田新田ヲ開キ土津神社ノ祭田トス	日新館童子訓成リ之ヲ藩士ニ頒タル	輕井澤新道ヲ開ク今ノ東松通ナリ	會津四郡ノ漆樹ヲ調査ス
會史四	溫故三	新記四	會史四	溫故三	會史一
承應三年 九万四千本 正徳元年 五万五千本 寛保二年 八万九千本 寛保二年 八万九千本					

桃園、寛延三 二四一〇	全 寶曆二 二四一二	全 寶曆四 二四一四	全 寶曆七 二四一七	後櫻町、寶曆一三 二四二四	光格、寛政三 二四五一
此春つぐみ空見エサル程渡リ來ル	湯川大洪水	旱魃	飢饉	春ヨリ痘瘡大流行	杜氏及ヒ能師ヲ招キ大阪醸酒法ヲ町村酒造家ニ傳授ス
日記下	全下	全下	全下	全下	田中

月	日	年	紀	事	項	参考書	備	考

全 寛政四 二四五二	田中支幸京都ヨリ工人ヲ聘シ金粉金箔ノ製造ヲ始ム 原覺之丞會津ニ養鯉ヲ始ム	田中
光格、寛政五 二四五三	赤城惣右衛門河沼郡赤城新田ヲ開ク	温故三
全 享和三 二四六三	田中支幸始メテ雲州ヨリ人參ヲ移植ス	田中
孝明、安政元 二五二四	田中支幸始メテ人參ヲ支那ニ輸出シ以テ國用ヲ助ク	田中
明治二〇 二五四七	大沼郡高田村ヨリ東尾岐ヲ經テ南會津郡大戸村ニ至ル道路開鑿成ル	温故三

九三

九二

九五

九四

(附録)

會津代々城主 系譜

義連

三浦十郎左工門

藤原泰衡征伐ノ時軍功ニ依テ鎌倉將軍ヨ
リ會津ヲ賜フ耶麻郡半在家村ニ墓有

盛連

遠江守ト云六男アリ

經連

廣盛

大炊助耶麻郡猪苗代ニ住セシニヤ其裔
彈正盛國ト云天平比其地ニ在セリ
次郎稱ス河沼部北田ニ住セシニヤ遠盛
猶存子孫應永中迄住セリ

盛義

三郎ト云同郡藤倉ニ居館跡有

光盛

次郎左工門尉ト云是會津著名氏ノ祖ナ

盛時

五郎左工門尉ト云後三浦介ト稱ス耶麻
郡下三宮ニ住セシニヤ其古墓アリ五郎
神社云有

時連

六郎左工門尉ト云同郡新宮ニ住セシニ
ヤ子孫應永中迄其地アリ

泰盛

三郎左工門
ト云

盛宗 遠江守
云ト

盛員

大夫判官腰

越ニテ討死ス

直盛

若狹守ト云光盛ヨリ盛員
マテ其住所不詳

直盛至徳元年府城ヲ築キ鶴ヶ城ト
名付城下ノ地ヲ黒川トイフ是城地開
ケタル始ナリ

詮盛 左

門尉ト云後

盛政 修理大 盛信 左近尉將監天
夫 寧村墓在リ

盛詮 下総守 盛高 修理大夫眞 盛舜
影賀相寺ニ在

盛氏 中興ノ英也仙道白河二本松田村須賀川
ノ諸將皆其指揮ニ從永保四年大沼郡岩
崎城ヲ築天正八年六月十七日卒小田村
墓アリ

盛興 早世青名血脉 盛隆 養子二階堂
至此斷絶 盛義子

龜王丸 三歳夭 義廣 實佐竹義重二男天正
十七年六月五日伊達

政宗ト摺上ケ原ニ戦テ敗北ス長臣二心
ヲ抱黒川之城難保常陸ニ遷ル

政宗 同十一日黒川城ニ入テ越年ス翌十八年
小田原役ノ後大隈胤問有テ舊領長井ノ

地ヲ賜ヒ捍領地明渡スヘキ由命セラレ同七月十三
日黒川城ヲ去テ出羽ノ長井ニ移ル

氏郷 蒲生飛騨守與徳寺ニ分骨葬ル天正十八
年豊臣大隈黒川城ニ入テ與徳寺ヲ評定

所トシ奥州仕置ヲ命シ氏郷ニ會津ヲ玉ヒ奥州ノ藩
鎮トシ一揆アラハ政宗ヲ先鋒トシ速ニ退治スヘキ

由命ス文祿元年六月氏郷郭城ヲ修理シ市街ヲ改制
ス此時層天守女櫓石疊城樓全備ル又黒川ヲ改メテ

若松ト稱ス

秀行 藤三郎後飛騨守

會津領百万石ヲ收公セラレ下野國宇都宮十八万石
ノ地ヲ玉ヒ二月其地ニ移ル

景勝 上杉中納言

秀行ノ跡ヲ賜テ二月廿四日若松ノ城ニ
移ル慶長五年神指村ニ新城ヲ築ノ事有テ御征伐ア
リ六月天下一統シテ八月會津領收公セラレ羽州米
澤三拾万石ノ地ヲ賜テ封ヲ移ス

秀行 同年九月再ヒ此地ヲ賜テ六十万石同十七
年五月十四日卒城下弘眞院ニ葬ル

忠郷 下野守ト云寛永四年正月四日瘧疾ヲ患
ヒ廿五歳ニシテ卒ス子無レハ家斷絶ス

城下高巖寺ニ葬ル

嘉明 加藤左馬之助

會津四拾万石余ヲ賜フ同八年九月十一
日江戸ニ於テ卒ス 式部少輔

明成 寛永十六年四月堀主水刀事有テ遂ニ主
水ヲ江戸芝ノ邸ニ誅ス同廿年五月有故領地盡ク奉

リシカハ其子藏助明友ニ石見國吉長ニテ一万石賜
テ移ル

初代 ハニツ 諱正之 正四位下中將 肥後守
土津神君 幼名幸松丸 又信澄

德川秀忠公四男 母神尾氏女
慶長十六年五月七日江戸に御誕生全十八年三月見
性院尼公に養はれ元和三年十一月保科肥後守正光
に養はれ給ふ寛永六年六月始めて秀忠公に謁す全
八年十一月保科遺領三万石を賜ふ時に年廿一全十
三年七月羽前最上へ二十万石として移封せられ全
廿年七月四日三万を加へ更に官地(南山)五万石を
兼管して始めて會津に入國あらせらる慶安四年家
光公の遺命により家綱公の補佐たり寛文十二年十
二月十八日江戸三田邸に逝去せらる 政務三十九年
延寶元年三月廿七日猪苗代見福山に葬る元治元年
三月從三位を追贈せらる

二代 ホウシヨウ 諱正經 從四位下侍從 筑前守
鳳翔院殿 幼名大之助 後素行軒致休

正之公四男 母藤木氏 正保元年十二月芝邸に
生れ寛文九年四月家督せらる年廿四天和元年十月
江戸三田邸に卒せらる 政務十三年 東山村院内山に
葬る 享年三十六
三代 トノオ 諱正容 初正信 正四位下中將肥
德翁靈神 後守幼名十四郎又重四郎
寛文九年正月三の丸に生れ天和元年二月家督時に
年十三元祿九年十二月松平の姓を授けの御教を拜用
せられ享保十六年九月本丸に卒せらる 政務三十二年
院内山に葬る 享年六十三
四代 ツチノウ 諱容貞 從四位下少將肥後守
土堂靈神 幼名菊千代又長菊 母侍妾垣見氏

享保九年八月三の丸に生れ全十六年十月家督年八
才寛延三年九月和田倉に卒せらる 政務二十年 院内
山に葬る 享年二十七

五代 ニハシツ 諱容頌 初容綬又容清
恭定靈神 幼名龜五郎 正四位中將肥後守

母侍妾館氏 延享元年正月三の丸に生れ寛延三年
十一月家督時に年七才文化二年七月本丸に卒せら
る 政務五十六年 東山村院内に葬る公は松平家中興
の祖にして殖産興業を勵まされ又日新館及南北學
館を建て日新館童子訓を撰せらるるなど大に教育
にも注心せられたり
六代 スミラン 諱容住 幼名金之助
貞昭靈神 從四位下侍從肥後守初め若狹守
安永七年十一月芝邸に生れ文化二年八月家督全十

二月和田倉和に卒せらる 政務五ヶ月 院内山に葬る
享年廿八歳
七代 アキサト 諱容衆 幼名金之助
欽文靈神 從四位下少將 肥後守

母侍妾石川氏享和三年九月本丸に生れ全四年蝦夷
の警備を命ぜらる文化三年三月家督年四才文政五
年二月本丸に於て卒せらる 政務七年 院内山に葬る
享年廿才
八代 マツラ 諱容敬 初容和 正四位下中將
忠恭靈神 肥後守 幼名慶三郎又勲貞
實は松平中務大輔義和二男
享和三年十二月小石川水戸邸に生る文政五年四月
家督嘉永五年二月江戸に卒せらる 政務三十一年 院
内山に葬る 享年四十七歳

九代 アサネ
忠誠靈神

カクモリ 諱容保 幼名銚之允正四位下參議
肥後守 後正三位東照宮守

實は松平攝津守義建六男天保六年十二月江戸四谷邸に生る弘化三年四月養嗣嘉永五年閏二月家督時に年十八才文久二年閏八月京都守護職に補す全四年二月軍事總裁職に轉す全年四月再び京都守護職に補す慶應三年十二月九日廢官明治元年九月廿三日家名斷絶全五年正月特旨を以て其罪を免ぜられ同廿六年十二月小石川邸に薨せらる年五十八才東京府下内藤新宿正受院に葬る

十代 モナカ
存誠靈神

カカハル 諱容大 幼名慶三郎
正四位騎兵大尉 貴族院議員

母侍妾田代氏明治二年六月若松御藥園に生れ全年十一月四日家名再立陸奥斗南に三万石を賜ふ全三

年五月從五位に叙す斗南藩知事に任す全四年七月藩を廢し東京華族に列す全十七年子爵を授く全廿八年四月陸軍騎兵小尉に任す後大尉に進まる征清征露兩役に從ひ功を以て勳五等に叙す全三十九年三月貴族院議員に選舉せられ全四十二年六月卒せらる享年四十二歳

十一代
保男君

從五位子爵海軍少佐
母侍妾田代氏容大公の令弟

明治十一年十二月市ヶ谷邸に生れ全三十年十二月海軍兵學校入學全三十五年一月海軍少尉に任す全三十九年四月日露戰役の功に依り勳五等功五級に叙す全四十三年六月十三日遺命に依りて家督相繼全年十二月海軍少佐に任す

明治四十四年九月廿七日印刷

明治四十四年十月一日發行

(會津日史奥附)

定價 廿五錢

著者

福島縣 若松市部會

發行者

鈴木 三郎

印刷者

佐藤 八四郎

印刷所

丸屋活版所

若松市下一ノ町

發行所

鈴木屋書店

不許
複製

書

御照會は總て郵券封入の事

籍

良書は最良の友にして最良の顧問なり

◎中等、小學、各校教科書 辭書、參考書、文學書、其他
和漢洋書 月刊雜誌 書籍なら總て取扱申候

御注文は定價丈前金御送付あれば

郵税は小店持にて御急送申べく候

但し特價品及教科書原書を除く

何本に係らず小店は多くの特約致し置候故東京の賣價を標準として特賣す御序に御立寄の程願上候

良書選擇の御相談に應じ御回答申べく候

若松市下一ノ町

鈴木屋書店

電話 二百一十番

雜

多數取經御注文は特別割引致候

誌

若松市馬場上一ノ町

活版石版諸印刷
和洋紙卸小賣
諸帳簿製造業



丸八商店

佐藤八四郎

電話「若松」百二十番
電略（〇八）

當會社ハ他商店ノ如ク責任ナキ販賣方ニ非ラズ
萬一粗製ノ品アラバ無代御取替差上申候

日本膽寫版合名會社代理店

陸軍并諸
官衙御用

丸 八 商 店

代理主任 佐藤三樹五郎

若松市馬場上一之町
電話(若松)百二十番
略(〇八)

當代理店ハ今回御擴メノ爲メ御買求ノ各位ニハ
特別ノ御相談可致候

568

389

▲會津旅行の指南車……

最近 會津旅行地圖

賣價 金八錢

本圖には最新統計表 名勝案内
殊に磐梯山登山案内圖を附す

若松市街全圖

定價 金五錢

會津 城下明細全圖
歴代

定價 金廿錢

此

押花郷氏

道

押花公之正